

令和2年度

文部科学省事業

共に学び、生きる共生社会 コンファレンス

IN

関東甲信越ブロック

～地域で共生の生涯学習を展開するために～

プログラム

2021/1/17(日)10～16時

＜WEB会議システム「ZOOM」によるオンライン開催＞

＜当コンファレンスサイト URL＞

<https://www.kyoseishakai-conference.com/2020>

「共生社会コンファレンス 2020」で検索



＜主催＞

一般財団法人福祉教育支援協会、文部科学省

＜協力＞

特別区社会教育主事会、全国喫茶コーナー交流会、国分寺市教育委員会

開催趣旨

障害者権利条約では、障害者の教育に関する権利を機会の均等を基礎として実現する観点から、障害者を包摂する生涯学習の環境を確保することを締約国に求めている（24条）。これを踏まえ、誰もが相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向けて、障害の有無等にかかわらず学びあえる場が広く整備されていく必要がある。こうした問題意識に基づき、本コンファレンスでは、多様な人々が集い、対話・交流するシンポジウム及び分科会等を通じて、以下の目的の達成を目指す。

第一に、障害者の参加を妨げている社会的障壁や、その解消のための方法について理解を深める（障害理解の促進）。第二に、障害の有無にかかわらず必要な学びが得られる環境を整えるための工夫や考え方の共有を図る（障害者の学びの場の担い手の育成）。第三に、障害者本人の経験やニーズが源泉となるような新しい学びあいの場と豊かな関係性を地域社会に創り出す取組を推進する（障害者の生涯にわたる学びの場の拡大）。

参加対象

障害者本人、学びの支援者・関係者、障害者の学びに関心のある人等、都道府県・市町村職員（障害者学習支援担当、生涯学習、教育、スポーツ、文化・芸術、福祉、労働等）、社会教育主事、公民館・図書館・博物館職員、特別支援学校等教職員、教職員経験者、障害者の学習支援実践者（NPO等）、大学関係者、福祉サービス事業所職員、社会福祉協議会職員等

タイムスケジュール

■10:00-10:20

オープニング・主催者あいさつ<障害者の生涯学習の推進に向けて>

小林美保氏（文部科学省 総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 障害者学習支援推進室長）

■10:20-11:20

基調講演<君と同じ街に生きてーインクルーシブな学びへ>

講演者：小林繁氏（明治大学 教授）

<略歴>専門は社会教育でノーマライゼーションの視点から障害をもつ人の学習文化活動や障害をもつ人が働く喫茶コーナーの取組に長く関わる。全国障がい者生涯学習支援研究会副会長や障害をもつ人が働く全国喫茶コーナー交流会の代表などをつとめている。



小林繁氏

■11:30-12:10

レクチャー<コロナ禍におけるオンラインの学びの可能性ーコロナ禍での障がい者のリモートの「学び」実践と工夫>

講師：引地達也氏（みんなの大学校 学長）

<略歴>一般財団法人福祉教育支援協会 専務理事・上席研究員、一般財団法人発達支援研究所 客員研究員、新聞学博士。

■12:10-12:30

各分科会紹介<各コーディネーターが説明>

<12:30-13:30 昼休憩>

■13:30-15:30

分科会

■15:30-16:00

クロージングセッション

各分科会のご紹介

■分科会 1

障害者青年学級の学び～東京都特別区の事例から～

◆分科会概要

東京都特別区では昭和 30 年代後半から、学校を卒業した障害者の学びの場として、障害者青年学級が開設されてきました。本分科会では、目黒区と渋谷区の実例報告から、障害者青年学級における知的障害者への学習支援について学び、これから障害者の学びの場をつくりたいと考えている方への一助とします。

◆コーディネーター：齋藤尚久氏（杉並区教育委員会事務局 生涯学習推進課 社会教育主事）

<略歴>杉並区の実例報告から、障害者青年学級等担当者情報交換会」の立ち上げに携わっている。

◆登壇者：小林繁氏（明治大学 教授）

谷岡重則氏（社会教育推進全国協議会）

森下富美代氏（目黒区教育委員会事務局 生涯学習課 社会教育主事）

石川稔氏（渋谷区障害者知的障害者教室 コーディネーター）

■分科会 2

知的制約のある人々の生涯学習支援に果たす大学の役割

◆分科会概要

冒頭司会から、これまでの大学における障害者生涯学習支援の歴史を振り返り、そこに流れていた思想とノウハウを示します。その後、3 大学 4 名の以下の事例発表をもとに、知的制約のある人々の学習ニーズにもとづく生涯学習支援に果たす大学の役割を考えます。

1. 成人知的障害者の「考える技」（科学的思考力と実生活応用力）を育てる一菅野敦氏
2. 当事者のニーズを開拓し学生と共に学ぶ体験—打浪文子氏、樋田幸恵氏
3. 特別支援教育地域ネットワークとの連携とコロナ禍においても取り組む工夫—山元薫氏

フロアの皆さんの意見交換も含めて、大学における取組の発展に生かせる諸条件を探りたいと思います。

◆コーディネーター：平井威氏（明星大学 客員教授）

<略歴>教員養成に携わる傍ら、障害のある人の地域生活と生涯学習支援に関する実践・研究に従事。全国障がい者生涯学習支援研究会 副会長。



平井威氏

◆登壇者：菅野敦氏（オープンカレッジ東京／一般社団法人生涯発達リサーチ・サポートセンター）

打浪文子氏（淑徳大学短期大学部）

樋田幸恵氏（淑徳大学短期大学部）

山元薫氏（静岡大学）

■分科会3

カフェを介した「共生の学び」の実践

◆分科会概要

東京・西東京市の「障がい者福祉を進める会」は、市内の障がい者団体が障がい者理解を進める活動の一環として、公民館の中に1987年「ふれあい」をオープン。公民館だけでなく地域でのイベントに協力してコーヒーをサービスしています。東京都立志村学園のCafé de NOVICEは生徒が実習として取り組むお店で、地域の市民講師の指導の下、地域に開かれたお店として、様々な取り組みを展開しています。二つの事例から地域の中で、障害者も他の人にとっても心地よい社会のあり方について学びます。

◆コーディネーター：兼松忠雄氏（明治大学 講師・全国喫茶コーナー交流会 事務局長）

<略歴>自治体職員として41年、主に社会教育、子ども支援等に従事。現在は、障害者が働く「喫茶コーナー」の広がりを通じた、共生社会の実現に向けて活動。明治大学講師。



兼松忠雄氏

- ◆登壇者：根本尚之氏（西東京市障がい者福祉をすすめる会 代表）
- 諏訪肇氏（東京都立志村学園 統括校長）
- 矢野善教氏（作新学院大学女子短期大学部）

■分科会 4

当事者の言葉からデザインする新しい学びー「学ぶ」を体感する学生シンポジウム

◆分科会概要

「学校卒業後も地域の中で自分らしく生きていきたい」そんな声にこたえるように、全国各地で多様な「学びの場」が創出されています。今回は、東京都練馬区、同国分寺市、茨城県つくば市の学びの場を舞台に、そんな「学びの場」に出会い「学び」とともにある当事者が、自分たちの思いをありのままに語るシンポジウムを企画しました。学びに出会うまでの自分、学んでいる今の自分、そして学びが拓く未来の自分・・・いろんな自分を対比させながら、当事者が「自分と学び」について率直な思いを語ります。自分が学んでいること、自分が変わったな～と思うこと、これからこんなことを学んでみたい！など、「学び」を得た彼ら（当事者）が、何を感じ、何を考えているのかがわかる貴重な機会＝学びの場です。これからデザインしていくべき新しい「学び」とはなにか、当事者の言葉から学び、ともに考えていきましょう。ぜひ、ご参加ください！

- ◆登壇者：水越真哉氏（みんなの大学校）
- 福原龍生氏（シャンティつくば）
- まなちゃん・高橋美奈代氏（モアタイムねりま）
- 飯嶋賢太郎氏・原田奈津紀氏（i-LDK）

◎この分科会はYouTubeでも同時に見ることができます。

URLはこちらです→<https://youtu.be/YTjynDUM8Cc>